

幼兒の摸倣的遊戯

和田 實

幼兒に摸倣の興味があると云ふこと及び夫れが幼兒の遊戯に盛んに表はれると云ふことは誰れも能く知つて居ることで今更云ふ迄もないでせう。夫れで從來兒童の間に行はれて居る此種の遊戯には何んなものがあるかと云ふと最も普通なものは種々の真似遊びで、まゝ事、軍ごつて、學校ごつて、電車ごつて、兵隊ごつて、などが重なるものであります。其他世間の事物を摸倣して喜んで居る有様を一々數へ立てると數限りなく種類の多いものであります。そして此摸倣遊戯が少し進んで來ると多少演劇じみて來るものであります。始めは神樂の真似などより起つて唱歌やお伽話の中の桃太郎を真似て

「僕は桃太郎、君は犬におなりよ、そして桃太郎で

つこしよう」など、腦中の脚本を實地に演出する様になるものです。從つて、摸倣遊戯には純粹に自分の觀察した所を單に摸倣するるときと談話又は唱歌等で取得した物語などを想像して之を實地に表はす爲めにする演劇的のものとの二つに分類が出来る筈であります。而して幼兒教育には何れも決して悪くはない、或程度迄は何方も有益なものであると云はねばなりません。人によると芝居の真似などを子供に遣らして怪しからぬと云ふけれども是は事と術とに因るので一概にけなすことは出来ません。夫れは成程純粹の芝居で遣つて居ることを其儘持つて來たのでは勿論害あつて益がない。併しながらお伽訓話に於て話された桃太郎を真似て之を實際に演じたからとて何の害があらうか虎退治の話聞いて加藤清正の真似をして其英風を偲ばうと云ふに何の害があらうか否大に益があるると云はねばなりません。何となれば是に因つて兒童は益其話に對する興味を深くし理解も

明瞭になり其話に因つて受くる感化も一層深くなるからであります。吾人は出来るならば幼児教育に於て益盛んに之を遣らせて見たいと思ふのであります。尤も茲で注意しなければならぬことは幼児の遊ぶ此種の摸倣遊戯は彼の一派の人の主張する所謂お伽芝居などと全然同視することは出来ないと云ふことです。勿論幼児の此興味は遂に發達してお伽芝居の様に純粹の芝居となる其基礎には違ひないのですが、去りとして全然同視す可きものではありませぬ。何故と云ふにお伽芝居と云ふものは元來が芝居として興へられたものですが、幼児の此種の遊びは元々は決して脚本として興へられたのではなくて、唯幼児が實際に見聞する所のものを材料として幼児自ら發動的に且斷片的に行ふもので決して纏まつた首尾のある演劇ではないのであります。故に其遊戯の源泉となる可き摸倣の材料と云ふ様なものも別段に供給することは要らないので幼児自身が事物を観察した所や

又は談話の中から、自然に得て來るものであります。然らば此種の遊戯は如何に誘導す可きかと云ふに一体幼児が摸倣遊戯をやるのは、つまり一度觀察し得た結果を復元して喜んだり又は談話の結果を異なつた感覺に因つて再び經驗しようと思ふのであるから此再經驗に都合のよい方法を探つて遣ればよいのです。之に就て第一に整へて遣らねばならないのは摸倣の標號となる可き補助物であります。例へば瀛車を見た後で瀛車を想像して樂しまうと思ふには兎に角其瀛車を代表す可き算盤であるとか積木であるとか云ふものがなければならぬ。之が即ち標號と稱す可きものであります。思ふと云ふのは其作業の結果は多く此標號として利用す可きものでありますから其材料は大体過去の經驗中にあるものから採つて之を摸造させることが多いのであります。

其外に兒童の最も多く使用して居るものは棒であります。是は或時は鐵砲ともなり或時は刀劍となるし又或時は馬の代用ともなるので兵隊の眞似、競馬の眞似、巡查の眞似等種々の眞似遊びが出来るものであります。兒童の摸倣力が進歩すると俱に其視力などが進歩して來ると遊戯用の代表的物品も漸次精密に摸倣したものが欲しくなる様になりますから此時期に達したらば實物を摸倣した銃、劍、洋刀、の様なものを與ふる必要が起つて來るし飯事の道具にしても石や貝殻の外に玩具屋にある玩具の茶碗や皿小鉢が一層興味ある様になるのであります。尙一層摸倣力が進んで來ると單に其動作のみならず、深く其摸倣物の精神をも摸倣し様とするもので、人物などならば其性格や風彩なども表はさうとするものであります。例へば桃太郎になつたものは意氣軒仰あたりを風靡するかの如き顔色風彩を表するものであります。兒童が是程に發達して來て被摸倣物の性格を

種々に表示することが出来る様になつたらば父兄は大に喜んで之を歡迎す可きもので此間に兒童が或理想の一方に牽引されて居ることを認めなければなりません。然るに何事ぞ世間には妄りに窮屈な偏固な教育説を振り回はして兒童に此種の遊戯を禁じ様とするものがあるのは。誠に兒童の爲めに氣の毒なこと、云はねばなりません殊に一般の幼稚園などでは頓と此方面に注意を向けないのは確かに幼児教育の一欠點と云はねばなりません。之を家庭で遊んで居る子供に徴して考へて見るのに丁度此幼稚園時代の子供と云ふものは玩具屋にある摸倣的玩具のわらゆるものを要する時期で盛んに此摸倣的遊戯を演ず可き時であります。然るに世人の考が漸次實用となり現實となつて徒らに想像的架空的事を喜ばないで記憶を要するものや作業的結果のある者を重んずる故か、此種の遊戯は動もすると輕んぜられる様で、會々兒童が神樂の眞似などして居ると馬鹿な遊びをさせて居

る様に思ふ人がある様です。従つて此種の遊戯に必要な彼假面と云ふものが近頃は餘り盛んに賣られて居らぬ様ですが是は幼稚園などには是非欲しいものだと思ひます。

何故と云ふに幼稚園の様な大人の多勢居る所では兒童は思ひ切つて素顔で此種の演劇じみた遊戯は遣り得ないものでもあるし且は素顔で大人の前で遣らして之を賞勵すると云ふことは多少眞面目な生活と想像的生活との間に存する區別を無視すると云ふ憂があります。が假面を用ゐれば此憂を除くと共に幼兒も思ひ切つて遊ぶことが出来すからです。

要するに摸倣遊戯は幼稚園時代の兒童には最も盛んに發現す可き遊戯でありませうから幼兒教育上の主要なる保育事項として其取り扱ひ方は充分研究する價値のあるものに違ひありません。

従つて幼兒にまゝ事をさせる時には如何なる注意を要するか、兵隊ごっこ、軍ごっこ、電車ごっこ、

等に就ては如何等實際誘導上に於ける種々の注意條項を見出すことは六ヶ敷ない筈であります。私は會員諸君が斯る方面に於て御研究の結果を本誌上に發表せられんことを望みます。

▲精神を働せると鼻が高くなる

鼻の高い處の兩側は軟かな骨と筋肉とから出来てゐる、其筋肉は精神がよく働くにつれて強くなる、其結果鼻は高くなり美麗になる、子供の時の鼻は後に立派になる鼻でもヘコンだやうな低い鼻をしてゐる、悲しいとか嬉れしいとか物事を研究するとか或は考へるとか云ふ風に精神を働かせると其の爲に鼻は高くなる一人々々に就ては能く判らぬが、纏めて調べて見ると實際精神をよく働かす人の鼻は高い、そして美麗である、それは西洋の人の調べた物があつて精神の働きと鼻の形の良し悪しとは争はれない關係がある『婦人衛生雑誌』